

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-113870

(P2001-113870A)

(43) 公開日 平成13年4月24日 (2001.4.24)

(51) Int. Cl.

識別記号

F I

キーワード (参考)

B 4 2 F 1/02

B 4 2 F 1/02

K 2 C 0 1 7

H 0 1 F 7/02

H 0 1 F 7/02

U

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平11-330349

(22) 出願日 平成11年10月16日 (1999. 10. 16)

(71) 出願人 594047337

大湊 正明

神奈川県横浜市緑区三保町2640番地55

(72) 発明者 大湊 正明

神奈川県横浜市緑区三保町2640番地55

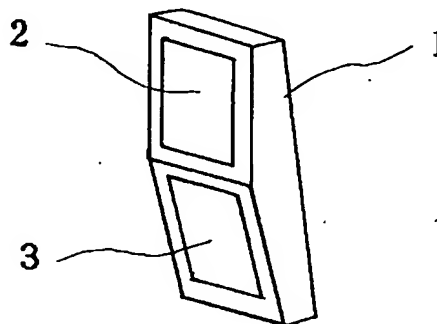
Fターム (参考) 2C017 BA14 DA01 DA03

(54) 【発明の名称】 マグネット式シーソー型メモホルダー

(57) 【要約】

【課題】 従来のマグネット式メモホルダーは、接着部が一面しかないため、メモ等を脱着するときにメモホルダー自体を脱着しなければならず、やりにくい。また、クリップ付の場合、メモ等とメモホルダー被接着面との間に段差ができ、追加メモが書きにくく、また、部品点数も多くなるためコストが高くなる。

【解決手段】 マグネットを用いて、くの字型に構成された二面の接着部を設け、その二面の接着部が、くの字型の頂点部を支点として、シーソーのように動いて一面ずつの接着部を交互に接着させるようにする。



Ominato

BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 マグネットを用いて、くの字型に構成された二面の接着部を設けたマグネット式シーソー型メモホルダー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、マグネットを用いて、メモ等を鉄板等に保持するマグネット式シーソー型メモホルダーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、マグネット式メモホルダーには、接着部が一面の物や、マグネットの上にクリップの機能を付加した物等がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のマグネット式メモホルダーは、接着部が一面しかないため、メモ等を脱着するときにメモホルダー自体を脱着しなければならず、メモホルダーの形状によっては脱着しにくい。

【0004】クリップ付メモホルダーの場合は、メモ等がクリップで挟んであるため、メモ等とメモホルダー被接着面との間に段差が生じて追加メモが書きにくく、また、部品点数が多くなるためコストが高くなるという欠点がある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、以上のような欠点を解決するために、マグネットを用いて、くの字型に構成された二面の接着部を設けたことを特徴としたマグネット式シーソー型メモホルダーである。

【0006】

【発明の実施の形態】上記のように構成されたことにより、一方の接着部が鉄板等に接着しているときは、他の一方の接着部は離れており、次に、離れている接着部を接着させると、それまで接着していた接着部が、くの字型の頂点を支点として離される。

【0007】このようにして、くの字型の頂点を支点として、シーソーのように動いて一面ずつの接着部を交互に接着させることにより、一方の接着部は本体の保持用に、もう一方の接着部はメモ等の保持用に用いることができ、マグネット式シーソー型メモホルダー自体を脱着することなく、メモ等の脱着が容易にできる。

【0008】

【実施例】以下、本発明の実施例について説明すると、図1のように、本体1にマグネットを用いて二面の接着部2、3を設け、その二面の接着部を、くの字型に構成する。

【0009】次に動作について説明すると、図2のように接着部2を鉄板等5に接着し、離れている接着部3にメモ等6を挿入し、図3のように接着部3を接着させるとメモ等6が保持される。このとき、本体1は、くの字型の頂点を支点4としてシーソーのように動いて接着部2は離される。逆にメモ等6を引き上げるか、接着部2を接着させれば、本体1は、同様に、くの字型の頂点を支点4としてシーソーのように動いて接着部3は離され、メモ等6をはずすことができる。

10 【0010】なお、接着部の構成は、図4のように一個のマグネット7に、くの字型をした鉄板8を接着させて用いてもよいし、図5のようにマグネット単体を、くの字型に成型してもよいし、図6のようにマグネットに、凸部を設けて支点4とし、接着部と支点を結んだ線で、くの字型を形成し、シーソーのように動くようにしてもよい。

【0011】また接着部や支点到角R等を設けると、メモ等が挿入し易く、落ちにくくなりシーソーのような動きもスムーズになり、片手での脱着が行いやすくなる。

20 【0012】

【発明の効果】以上のように、本体を脱着せずにメモ等の脱着が容易にでき、また、本体を、脱着するときも、一方の接着部が離れているので、つまみやすく容易であるため、鉄板等の表面に傷が付にくく、落として壊す割合も少なくなる。メモ等が被接着面に接しているため追加メモが書き込みやすい。クリップ付に比べて部品点数が少ないのでコストを抑えられる。また、接着部側と接着部が離れている側の高さの差を利用して、たとえば一方は○、一方は×というふうに表示方法にも使える。

30 【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の接着面側より見た斜視図

【図2】 本発明の接着部2の動作説明図

【図3】 本発明の接着部3の動作説明図

【図4】 本発明の接着部の別案の構成例を示す図

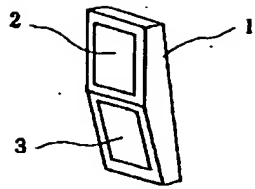
【図5】 本発明の接着部の別案の構成例を示す図

【図6】 本発明の接着部の別案の構成例を示す図

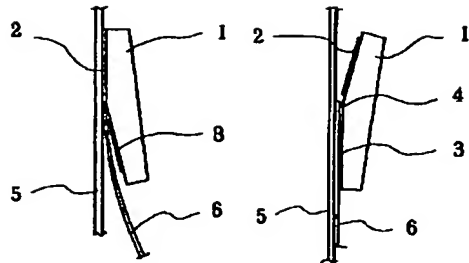
【符号の説明】

- 1 本体
- 2 接着部
- 3 接着部
- 4 支点
- 5 鉄板等
- 6 メモ等
- 7 マグネット
- 8 鉄板

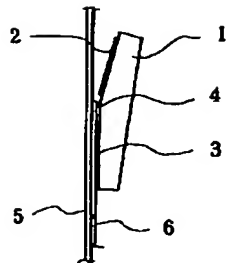
【図1】



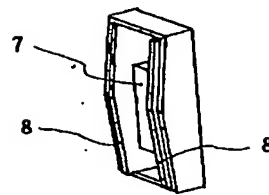
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

